

クリ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒 性	使用時期 (回数)	使用回数	芽枯病	胴枯病	実炭疽病	ゆ合促進	アブラムシ類	カイガラムシ類	クリタマバチ	モモノゴマダラノメイガ	ネスジキノカワガ	コウモリガ	クリミサ	ククス	キクイムシ類	カミキリムシ類	クリシギゾウムシ
ドイツボルドーA水	M1		*b	-			◎												
石灰硫黄合剤	M2		*a	-	◎														
トップジンM水	1		3	4			◎												
トップジンMペースト	1		*d *j	3		◎		◎											
ベンレート水	1		*g	4			◎												
ジマンダイセン水	M3		7	2			◎												
バルコートFL	M7		14	2			◎												
アタックオイル	UNM		*a	-					◎										
ガットサイドS乳	1B		*f *L	1										◎			◎		
サッチューコートSセット乳	1B		*m *i *h	1										◎			◎		◎
スミチオン水40	1B		*g	4						◎	◎								
アークリン水	3A		14	3															◎
アグロスリン水	3A	劇	7	5						◎									◎
アディオソ乳	3A		14 *k	5						◎									◎
トレボン水	3A		14	3															◎
マブリック水20	3A	劇	7	2					ク	◎									◎
アドマイヤー水	4A	劇	*n	3					◎										
モスピラン顆粒	4A	劇	7	3					◎	◎		◎		◎					◎
ディアナWDG	5		1	2								◎							
デリゲートWDG	5		1	2								◎							
パダシG溶	14	劇	*c	3								◎	◎						
アブロード水	16		7	2						幼									
フェニックスFL	28		1	2								◎				◎			
トラサイドA乳	1B・1B		*e *g	1 1						◎									◎
パーマチオン水	1B・3A	劇	*g	4					ク										◎

\*a:発芽前 \*b:果実肥大期 \*c:裂果前 \*d:剪定整枝時、病患部削り取り直後及び病枝切除後  
 \*e:発芽直前 \*f:3~5月(産卵初期) \*g:裂果前(但し収穫14日前まで) \*h:産卵時期(但し収穫60日前まで)  
 \*i:幼虫食入期直前~幼虫食入初期(但し収穫90日前まで) \*j:病患部削り取り直後  
 \*k:羽化脱出期(但し収穫14日前まで) \*L:裂果前(但し収穫90日前まで) \*m:産卵時期(但し収穫90日前まで)  
 \*n:収穫7日前まで(但し露地栽培については発芽期から開花期を除く)  
 カ:カツラマルカイガラムシ ク:クリイガアブラムシ 幼:幼虫

ク  
リ

## クリ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
胴枯病		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 密植、肥切れなどにならないように栽培管理につとめる。</li> <li>2. 草生栽培として下草管理を励行する。</li> <li>3. 枯死枝、剪定枝は伝染源となるので、園内に放置しない。</li> <li>4. 枯死枝・病患部は削り取り、傷口、切り口にはトップジンMペーストを塗り保護する。</li> </ol>	一般に若木では接木部を中心に発病する。
実炭疽病		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発生の少ない品種を栽培する。</li> <li>2. 密植をさけ、整枝、間伐を励行する。</li> <li>3. 果実害虫を防除する。</li> </ol>	丹沢、伊吹、筑波などにやすい。 成木にでやすく、幼木に少ない。 雨の多い年にやすい。
	7月中旬～8月下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の薬剤のいずれかを2～3回、イガに十分にかかるように散布する。</li> <li>ベルコートフロアブル 1000倍</li> <li>ベンレート水和剤● 2000～3000倍</li> </ul>	●耐性菌を生じやすいので連用しない。
疫病		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発生地では草生栽培とする。</li> <li>2. 密植、樹の軟弱徒長とならないよう栽培管理につとめる。</li> <li>3. せん孔性害虫を防除する。</li> </ol>	一般に発病部位は地表から1m内外の高さまでの幹、主枝の部分に限られる。
黒色実腐病		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 胴枯病、実炭疽病に準じた耕種的防除を行う。</li> <li>2. 密植、肥切れなどにならないように栽培管理につとめる。</li> <li>3. 草生栽培として下草管理を励行する。</li> <li>4. 枯死枝、剪定枝は伝染源となるので、園内に放置しない。</li> </ol>	東京都では近年発生が多い。 高温の年に発生しやすい傾向がある。
クリイガ アブラムシ (クリキナコムシ)	6月中旬～下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の薬剤のいずれかを散布する(イガの内部まで十分散布する)。</li> <li>アドマイヤー水和剤*a 1000倍</li> <li>マブリック水和剤20 2000倍</li> </ul>	岸根ほか中期晩生種に多くなる傾向がある。 *a露地栽培については発芽期から開花期を除く
モモノゴ マダラノ メイガ	6月下旬～7月中旬・8月上旬～9月中旬(裂果前)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の薬剤のいずれかを散布する。</li> <li>パダンSG水溶剤 1500倍</li> <li>フェニックスフロアブル 4000倍</li> </ul>	森早生は7月下旬、8月上旬、中旬、銀寄は8月中旬、下旬、9月上旬それぞれ散布する。

## クリ (果樹類、落葉果樹の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
キクイムシ類	3～5月 (産卵初期)	・次の薬剤を地際から150cmまで塗布または散布する。 ガットサイドS (乳) (塗布) 原液～1.5倍 (散布) 1.5倍	卵のふ化始めを中心に樹幹の産卵部位に薬液を噴霧する。
カミキリムシ類	裂果前	1. 被害部を見つけ捕殺する。 2. 次の薬剤を樹幹部に十分に散布する。 トラサイドA乳剤# 100～200倍	# 裂果前(但し収穫14日前まで) 薬剤が葉にかかると葉害を起こすことがあるので注意する。
クリシギゾウムシ	9月下旬～10月 (裂果前)	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン水和剤 1500～3000倍 アディオン乳剤 2000倍	
クリタマバチ	発芽期 (4月中旬) または成虫発生期 (6月中旬～下旬)	1. 耐虫性品種を選ぶ。 2. 低樹高剪定栽培を励行する。 ・発生の多い時は、次のいずれかの薬剤を散布する。 1. 芽がゆるみ、先端が白く5mm程度のびた時期(発芽直前)。 トラサイドA乳剤△ 200倍 2. 成虫の発生初期、一般的には品種「筑波」の雄花満開期 アディオン乳剤# 1000～2000倍 マブリック水和剤20 2000倍	耐虫性品種の中では石鎚、有磨、銀寄、出雲、岸根などは強い。 △トラサイドA乳剤による防除は低樹高剪定栽培でない、散布ムラから効果が劣る場合が多い。  # 羽化脱出期に散布(但し収穫14日前まで)
その他の病害虫		ハマキムシ類、キスジキノカワガ、トドマツハダニ、クリフシダニ	

ク

リ